

主体的な学びを实践する

# 小中学生のための



# 交流サマースクール

東 愛義



Julia (ユリア) ガラス工場で作られたクリスタルガラスは品質も良く、コストパフォーマンスも非常に優れている。また、手作りの為一つとして全く同じものはない

6月27日、私たちは牧場の近くにある、ユリアガラス工場とホイニク城に行くことになった。ユリアガラス工場は創業150年の歴史を持つ、老舗のクリスタルガラスメーカー。作品はすべて職人の手によって作られ、美しい輝きを放っている。鹿児島で例えるなら、薩摩切子のようなものだ。私たちが工場に着くと目に入ってきたものは、棚に並んであるカラフルなガラスの数々。ワイングラスや花瓶、お皿など種類も多彩で、どれも高級感を漂わせている。その皿にバナナを置くだけで瞬間に王宮で出てくるような高級フルーツへと早変わりするだろう。そんなガラスを作る過程を見られるというのだから、興味しか湧いてこない。私たちはガイドと共に工場の中へ。工場の中はとて広い・・・というわけではなく、道具が密集しているよ

うに感じる。その工場の周りを回るように通路が用意されていて、ガラスの作る工程をすべて見ることが出来る造りだ。ガラスを吹くところや研磨など、どれ一つとっても繊細な作業が求められるが、そうして出来た物の中にはワールドカップのトロフィーや、オランダの王室で使われていた器などもあった。そんなガラスのことだ、手が出ないほど高いだろう。と思いつく日本でも手作りのガラス細工を買ったものなら、数万円はするだろう。しかし、このガラスは3千円を持っていさえすれば、ほとんどの商品が買えてしまうのではないか？と思えるほどの値段だった。その値段に子どもたちも大喜びでお土産を買っている。それにはポーランドの物価も影響しているのかもしれないが、それにしても驚きの値段だ。美しいガラスを存分に見終った後、工場見学は終わり、私たちはホイニク城へ向かう。そこはガラス工場近くの山頂に佇んでいて、とても有名な観光地になっているらしい。今日もたくさん観光客がここを訪れていた。城へは急な坂道をひたすら登っていかなくてはならないが、そこには松や白樺の森が広がっており、日本の森とはまた違った表情を見ることが出来る。その景色を見ながらどんどん上へ上へと登っていくにつれて、最初は軽かった足取りも重くなっていく。そんな中頂上に

着くと、山麓を見た物とは比べ物にならない迫力のあるお城が目の前に現れて私たちを圧倒させた。数あるお城の中には戦争や火事などで崩壊したものは珍しくはないが、ここは比較的形を留めているようで馬小屋や弓の練習場、井戸などの跡がハッキリ残っている。そんなお城の上から見る景色はまさに絶景で、街並みを一望できた。ホイニク町の町には赤い屋根の家が多く、昔ながらの家々が数多く



お城の高台から街を眺める小学1年生のノゾミちゃん。うわ〜高い！綺麗だね！と感動をあらわにする

し、こちらの建造物はそこまで高くない、その代わりに街は横に広がっているように感じる。そのため遮るものがなく、存分に景色を楽しむことが出来るのだ。しかし、それは国土が広いからできる事であり、日本がこの街造りを真似しようものなら、国土の大半が建物と化すだろう。やはり街もその国の特徴を表すようだ。

## スケジュール

6月27日 Juliaガラス工場見学と Chojnik城への遠足

6月28日 地学博物館へ 科学実験など

7月1日~7月2日 ポーランドの都市 プロッツツワフへ



ホイニク (chojnik) 城の城壁。627mの山頂に佇んでいる。その姿からは昔の人々の技術力がうかがえる。

し、こちらの建造物はそこまで高くない、その代わりに街は横に広がっているように感じる。そのため遮るものがなく、存分に景色を楽しむことが出来るのだ。しかし、それは国土が広いからできる事であり、日本がこの街造りを真似しようものなら、国土の大半が建物と化すだろう。やはり街もその国の特徴を表すようだ。